

# チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



## 離席を繰り返すAさんへの支援



### ある小学校の取組

#### (1) Aさんの実態

- ・1年生のときから支援を必要とする児童であったが、2年生になってから離席が増えた。過去に通院・相談歴はない。

#### (2) 校内支援体制

- ・どうしても教室にいられないときは、担任の先生に断ってから、決められた場所に行くなど、最低限のルールをつくった。
- ・特別支援学校のセンター的機能を活用して「個別の指導計画」を作成した。
- ・「個別の指導計画」を基に、今後の目標や手立てについて、保護者と共通理解を図るとともに、双方でできることを確認した。
- ・担任は授業を優先し、児童が離席をした場合は、教頭先生はじめ、校内の先生方が支援する「Aさんシフト」を作り、全職員でAさんを指導することにした。
- ・離席したときは避難場所で自由に過ごすのではなく、用意した課題の終了後に、好きなことをしてもよいことにした。

#### (3) 指導の成果

- ・離席は5月中旬から夏休み前まで続いたが、夏休み明けからは少なくなり、9月には「Aさんシフト」の必要がなくなった。
- ・保護者と学校、そして、全職員が「思いのカタチ」を重ね合わせた結果、Aさんにとって過ごしやすい環境を用意することができた。
- ・コーディネーター役の教頭先生と特別支援学級の担任が役割分担しながら、校内外の関係者と連携したことでチーム支援が実現した。

#### (4) 誤った対応

- ①子どもが勝手に教室から出て行ってしまう（子どものペースから大人のペースに）
- ②担任から落ち着くまで避難場所に行っていていいと言う（追い出しになる）
- ③避難場所が楽しい居場所となる（子どもの居場所はみんながいる教室！）

- ・避難場所があくまでも緊急時に利用する場所。子どもの居場所は「教室」である。避難場所に行くときは、必ず担任の許可のもと行動すること、「クールダウンできたら戻っておいで待っているよ」と声をかけることを忘れてはならない。避難場所で支援する教師は、子どもが落ち着いたら「困ったときは来ていいからね」と送り出す。担任は教室に戻ってきたことを評価し、今、行っている内容を伝える。
- ・子どもの状態がよいときに、クールダウンの際の約束を確認したり、自分の気持ちをコントロールするスキルを練習したりする。（事後指導よりも事前指導が大切）
- ・離席を繰り返す子どもの本音は、「みんなと一緒に勉強したい」かもしれない。離席は子どもにとって一番辛い選択かもしれない。子どもの表面的な行動ではなく、見えない困り感に思いを寄せたい。 **「子どもだって本当はいい子でいたい！」**